

CITY OF DESIGN KOBE 2018-19

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008



デザインで創るまちの魅力

デザイン都市・神戸 2018年度の取り組み



幸せな日常、ワクワクした毎日をデザインする デザイン都市・神戸 認定10周年

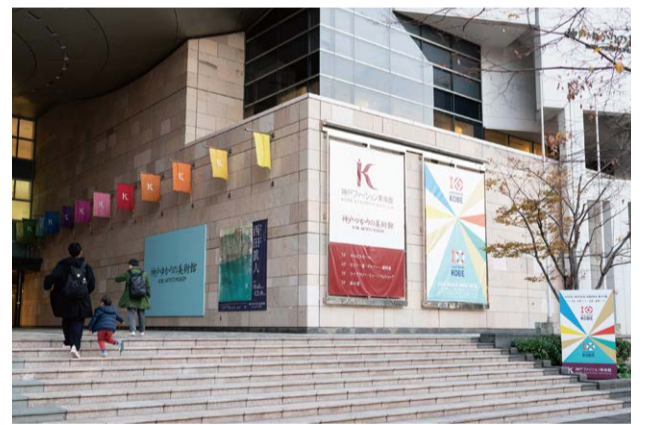
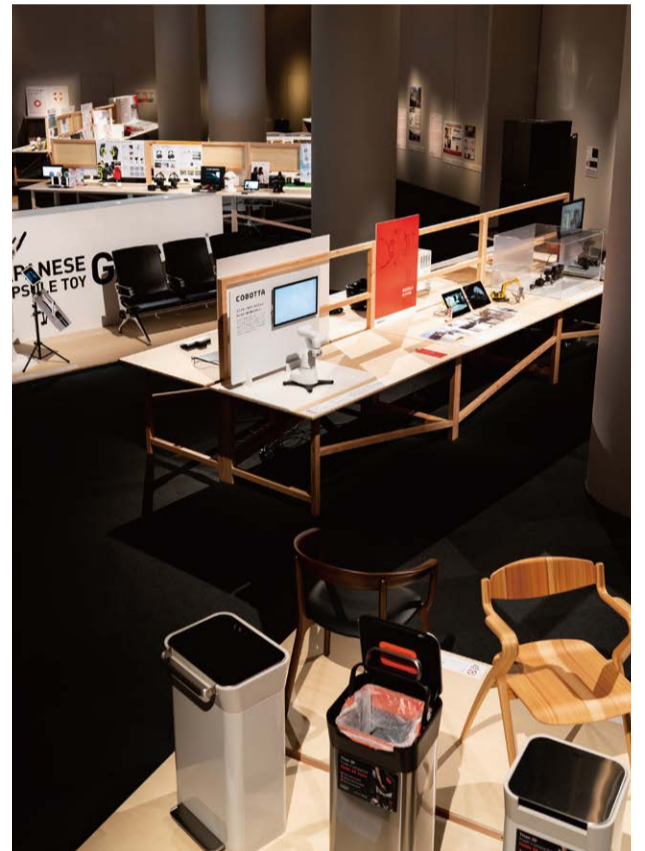
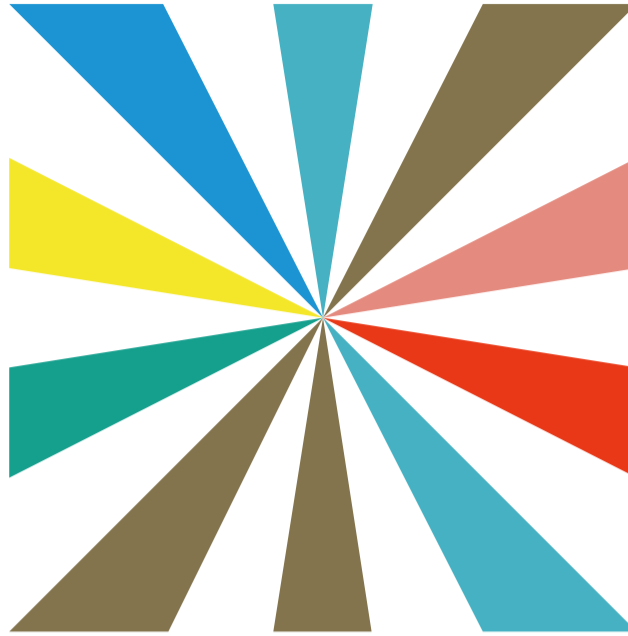
1868年の開港以降、「ひと」「情報」「もの」を広く海外から受け入れてきた神戸。特色ある神戸の文化は、これらが融合することで生まれ、山と海に囲まれた自然に富んだ「まちなみ」、外来文化を積極的に受け入れる開放的で自由な気風・風土が作り出した「くらしの文化」、ケミカルシューズ・洋菓子・真珠などに代表される「ものづくりの技術」など、都市として誇れる素晴らしい

資源や魅力が育まれてきました。1995年の阪神・淡路大震災からの復興の過程でも、人の絆や助け合いの素晴らしさに触れることができました。脈々と受け継がれてきた豊かな感性や創造力は、まさに神戸のDNA。それを生かすデザインの力が、人への思いやりと未来への力となって神戸の復興を支えたのです。デザインには人々をひきつけ、心を動かす力があります。た

とえば、地域の資源を生かした観光振興や、魅力ある景観づくり、産業の活性化にデザインの力は不可欠です。また、毎日のくらしの中で、環境・防災・防犯・福祉・教育といった私たちの身近な事柄に潜む課題を見えやすくすること、伝わりやすくすること、さらにはこれらに思いをめぐらし行動を促すこと、これもデザインの大切な役割です。ちょっと便利に、少しやさしく、もっと楽しく、ずっと幸せに。人はみな、素晴らしい創造力を持っています。その創造力は、教育・文化・芸術などによって育まれます。創造力に基づく一人ひとりの行動は、自らの心豊かなくらしと社会の活性化をもたらすでしょう。私た

ちは、こうした過程を大切に都市の空気や、価値観を市内外に広く共有していきたいと考えています。2018年10月、神戸市がユネスコ創造都市ネットワークの「デザイン都市」に認定されてから10周年を迎えました。これからも市民が創造性を発揮し、幸せを実感できるまちとして成長していきます。

上.GOOD DESIGN AWARD 神戸展
photo@Junpei Iwamoto
左下.ちびっこうべ photo@Shinko Tsujimoto
右中.VIVISTOP mini in KOBE
右下中.ちびっこうべ photo@Jotaro Sakashita
右下.GOOD DESIGN AWARD 神戸展
photo@Junpei Iwamoto



都市の明日をつくるデザイン GOOD DESIGN AWARD 神戸展の開催

ユネスコ創造都市ネットワーク「デザイン都市」認定10周年と神戸新聞創刊120周年を記念して、2018年11月23日から12月24日に、東京以外では初となる大規模なグッドデザイン賞展を神戸ファッション美術館で開催しました。「都市の明日をつくるデザイン」をコンセプトにした本展覧会では、公益財団法人日本デザイン

振興会の特別協力のもと、2018年「グッドデザイン・ベスト100」受賞対象に加え、時代を超えて愛されてきた「ロングライフデザイン」や兵庫県内の受賞対象作品など約200点を紹介。社会の課題に応え、幸せな未来をもたらす「グッドデザイン」の数々に6,000名を超える来館者が触れました。



GOOD DESIGN AWARD 神戸展関連イベント 「GOOD DESIGN AWARD 神戸展」の会期中さまざまな関連イベントを実施しました。

記念講演会

柴田文江 審査委員長(プロダクトデザイナー)

「美しいものごと -グッドデザインがもたらす可能性-」

審査委員長の目から見た「グッドデザイン賞 2018」について、「美しさ」をキーワードにした解説が行われました。また、柴田氏自身がこれまで手掛けてきたプロダクトや事業の数々についても多数が紹介されたのち、参加者からの質問が相次ぎ、会場は熱気に包まれました。

齋藤精一 審査副委員長(クリエイティブ/テクニカルディレクター)

「皆で良くしていくデザイン -総合力が生むグッドデザイナー-」

見つける、開放する、問題を提起する、繋ぎ合わせるといった言葉とともに、さまざまな立場を超えて力を総合し推進するために必要なこと、そのためにデザインができることについて、自身の体験を交えて語られる言葉に多くの参加者が聞き入りました。

左、「美しいものごと -グッドデザインがもたらす可能性-」
右、「皆で良くしていくデザイン -総合力が生むグッドデザイナー-」



館外クロストーク

鈴木啓太 審査委員(プロダクトデザイナー)、竇角光伸 審査委員(プロダクトデザイナー)

「良いものをつくる良いデザイン」

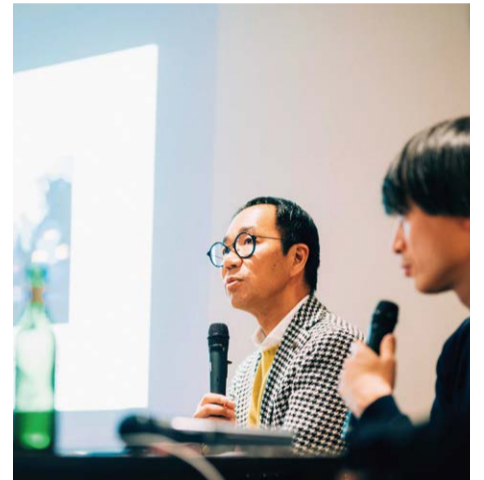
おふたりのこれまでの経験を交えながら、ものづくりに対する考え方やこれからの時代に求められるものづくりの姿を語られ、多くの人を惹きつけました。

岩佐十良 審査委員(クリエイティブディレクター)

「都市の忘れもの -デザインがその土地でできること」

岩佐氏が審査をされた一般・公共向け取り組みから、数点ご紹介いただいたのち、地域に住む人と訪れる人をつなぐ仕組みをいかにデザインするかについて、天宅正氏(本展総合ディレクター)と対談しました。

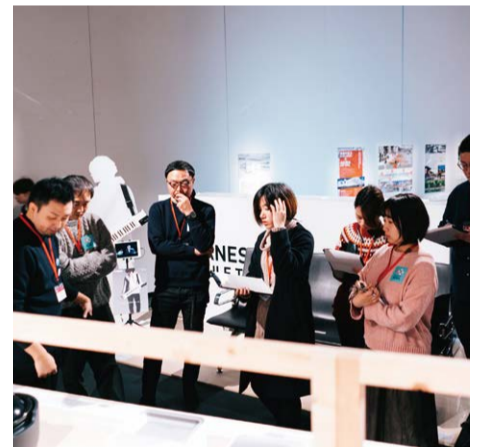
左、「良いものをつくる良いデザイン」
右、「都市の忘れもの -デザインがその土地でできること」 photo©Junpei Iwamoto



模擬審査

高校生や大学生が参画する「グッドデザイン・ベスト100」の模擬審査を3回実施。現役の審査委員である、服部滋樹氏(クリエイティブディレクター)・原田祐馬氏(アートディレクター)や、日本デザイン振興会職員と一緒に審査過程を体験し、優れたデザインとは何か、またその力や意義について理解を深めました。学生達が身の回りにある製品や仕組みの背景や広がりを意識するきっかけにもなりました。

左.高校生による模擬審査
右.大学生による模擬審査 photo©Junpei Iwamoto



ギャラリートーク

学生ギャラリートーク(会期中に12回)

神戸芸術工科大学の学生が自身の観点でピックアップした受賞対象をツアー形式で紹介。学生は、受賞対象の背景や特徴、受賞理由などをしっかりと調べ、大学で学んだ知識も交えながらわかりやすく説明。来館者からも好評を博しました。

「ウキウキ、デザイン都市」

近年の受賞対象の中から、神戸のクリエイティブ関係者が選んだ製品やサービスを展示した「City of GOOD DESIGN」エリアにて、グッドデザイン賞2018審査委員の伊藤香織氏(都市研究者)、原田祐馬氏(アートディレクター)、天宅正氏(本展総合ディレクター)、久慈達也氏(本展キュレーター)が展示の意図や背景について解説しました。

左.学生ギャラリートーク
右.「ウキウキ、デザイン都市」 photo©Junpei Iwamoto



Myマークを作ろう!

自分だけのシンボルマークが入った、オリジナル缶バッジやキーホルダーを作るワークショップを開催。子どもたちも参加しました。



photo©Takehiro Wada

オープンスタジオ

12月14日・15日の2日間、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)、灘高架下、二宮町のコワーキングスペース、三宮町のデザイン事務所がオープンスタジオを開催。普段は見ることができないクリエイターやデザイナーの活動の現場を知るまたとない機会となりました。



photo©Junpei Iwamoto



神戸の未来を担う創造的人材の育成をめざす
神戸市こどもの創造的学びに関する研究会



次世代を担う創造的人材の育成に、分野・領域の枠を超えて長期的な視野で取り組んでいくため、2018年7月から、教育に関わる人々や企業、保護者などといった多様な関係者による研究会を開催しています。研究会では、次世代に必要な創造性に関する議論や知見の共有を行うとともに、子どもの創造性を育むために有効な場・機会やプログラムの創出・開発に取り組んでいます。12月にはデザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)を会場にゴルフフリーで電子工作

やコマ撮りアニメ制作に取り組む「VIVISTOP mini in KOBE」を5日間開催。3月にはこべっランドを会場に「ホンモノと出会う」をコンセプトに「神戸のスゴイ!を知ろう〜筋電義手編〜」を実験的に開催しました。この研究会はこれからも議論と実験を繰り返しながら、神戸の未来を担う創造的人材の育成をめざすプラットフォームとしての機能を発揮していきます。

左.VIVISTOP mini in KOBE
右.第1回「神戸市こどもの創造的学びに関する研究会」



廃材が子どもたちのソウゾウ(創造と想像)力を育む
こどもSOZOプロジェクト



「こどもSOZOプロジェクト」は、廃材を使ったワークショップを通じ、子どものソウゾウ(創造と想像)力と生きる力を育むプロジェクトです。革の端切れ、木片、プラスチックなど、市内の店舗や工場を回り集めたさまざまな廃材を素材にして、子どもたちは自由な発想で形にいきます。ワークショップは毎月第2土曜とその翌日の日曜に定例で開催中。廃材提供者である市内事業所や、子どもたちの活動に寄り添う市民サポーター、子どもやその家族たちが、廃材を通してつながるとともに、たくさんの方がこのプロジェクトを支えています。

ますます多様化する行政課題の解決へ
神戸市クリエイティブディレクター

「+design」の視点で市が直面しているさまざまな課題を解決するために、2015年6月からクリエイティブディレクターが市役所で勤務しています。2018年度には山阪佳彦氏の後任として新たに平野拓也氏が就任し、天宅正氏とともに2人体制で課題解決に取り組んでいます。クリエイティブディレクターは、デザインの力や視点を活用して、市の事業やサービス、広報をよりよくするため市職員に対してアドバイスを行ったり、研修を行ったりしています。2018年度は、

例えば神戸市立定時制高校生募集ポスターや水道料金の使い道に関するマンガパンフレットなど、190件以上の事業・施策に関してアドバイスを行ったり、ときには「里親制度の周知」や「こどもの居場所づくり」といった政策課題に関係者や担当部署の職員とともに深く掘り下げるワークショップを継続的に実施するなど、高い専門性を生かして活躍しています。

左.定時制高校生募集ポスター
右.水道料金の使い道に関するマンガパンフレット





本に親しむスペースや芝生エリアが期間限定で登場
KIITOに移動型カフェ&ブックワゴン



2018年10月6日から21日、「本」をテーマにKIITOの空間活用の可能性を探る実験として、移動型カフェ&ブックワゴンや芝生エリアが登場しました。カフェメニューとともに、絵本や児童書、デザイン関連の書籍等、約400冊の本を

ゆったりと楽しめる空間を演出。小さな子どもたちを連れたファミリーを中心に多くの来館者で賑いました。

左.移動型カフェ&ブックワゴン
右.芝生エリア



ポップアップショップで 産品やクリエイターの活動を発信

期間限定『瀬戸内経済文化圏』ポップアップショップ

瀬戸内で活動するクリエイターたちが提唱する「瀬戸内海に面する都市の、一極集中型の放射線状に広がるコミュニティではなく、環状に相互に連携するコミュニティである瀬戸内経済文化圏」を可視化する取り組みとして、KIITOに期間限定の『瀬戸内経済文化圏』ポップアップショップが2018年10月4日から14日までオープンし

ました。お米やカレー、ジャム、ジュースといった食品からハンカチなどの雑貨まで、約30品の販売や瀬戸内地域のクリエイターの活動の発信を行いました。またこれに合わせて、トークイベントも開催。瀬戸内経済文化圏という考え方やその可能性、エリア全体の活性化にむけた「デザイン都市・神戸」の役割について議論しました。

様々な文化的バックグラウンドを持った市民が 英語で語り合う

神戸コミュニティフォーラム

神戸には様々な文化的バックグラウンドを持つ市民が多く暮らしています。そんな市民の皆さんとともに、多文化共生に関する理解を深め、人と人、コミュニティ間のつながりをより強めるきっかけとして2019年2月に「神戸コミュニティフォーラム2019」を開催しました。3回目となる今年のテーマは、神戸市立葺合高校の高校生有志がKIITOと一緒に考えた「神戸のディープな

魅力再発見」。高校生たちは、KIITOのサポートのもと、テーマに沿ったリサーチやプレゼン作りを学び当日に臨みました。そんな高校生たちのプレゼンテーションとファシリテーションによって、参加者の議論は盛り上がり、参加者が考える神戸のディープスポットが多数発掘されました。今後様々な媒体を使って、これらのディープな神戸情報を発信していきます。



社会の課題に、市民の創造力を。

issue+design記念展示

社会が抱える課題に対して市民の創造的な力を利用して解決に挑むプロジェクト「issue+design」。被災地でボランティアや住民が自分のできることを表明し助け合うための「できますゼッケン」など、2008年の発足からの10年間にわたる「issue+design」の取り組みを紹介する展示会が2018年10月7日から27日までKIITOで開催され、市民参加型によるまちづくり、ソーシャルデザインの考え方や可能性を広く市民に伝えました。



神戸から創造するKOBEの未来への提案を 実践していくために

神戸クリエイティブフォーラム2019

AIやイノベーションのトップランナーをスピーカーとして招き、参加者のクリエイティビティや知的好奇心を刺激するトークイベント。落合陽一氏や濱口秀司氏をゲストにお招きし、「AI社会における教育」「創造的なライフスタイルのあり方」「働き方改革時代の雇用」など新しい価値・文化・社会の姿を議論し、神戸でクリエイティビティを実践してもらおうきっかけづくりの場を創出しました。





「デザイン都市・神戸」の創造と交流の拠点 デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

デザイン・クリエイティブセンター神戸は、「デザイン都市・神戸」の創造と交流の拠点として、2012年8月にオープンしました。生糸(絹糸)の西日本の輸出拠点だった神戸生糸検査所をリノベーションしたこの施設は「KIITO(キイト)」の愛称で親しまれています。市民の創造性を育むイベント、ワークショップ、さまざまなプロジェク

トを通じ、クリエイティブな人材の交流と集積が行われています。歴史的建築物を活用した施設内には、創造的活動のためのオフィス、約1,000㎡のホール、ギャラリー、貸会議室、カフェなどがあります。

photo©Shunsuke Ito



こどものまちは、神戸の未来。 ちびっこうべ2018



「ちびっこうべ」は、子どもたちとクリエイターと一緒に夢のまちをつくる体験型プログラム。2012年の開館以来、2年に1度開催するKIITOを代表する創造教育プログラムです。シェフ、建築家、デザイナーから、なりたい職業を1つ選び、プロから学びながら約3か月かけて夢のお店をつくる「ユメミセワークショップ」をはじめ、

子どもたちは夢のまちの運営やまちをつくる様々なプログラムに参加。ラジオ局や新聞社などの仕事も体験し、住民のひとりとしてまちの運営にも携わりました。

左、シェフから学ぶ子どもたち photo©Shinko Tsujimoto
右、夢のまち photo©Jotaro Sakashita



わくわくする高齢社会の可能性 LIFE IS CREATIVE

2015年の「LIFE IS CREATIVE展」で提案した、わくわくする高齢社会を目指した、多様な老後の生き方や暮らし方のアクションプランを継続してサポート。長年にわたり趣味として洋裁の技術を培ってきた女性たちが参加する「大人の洋裁教室」では、参加者たちのスキルアップ講

座を継続して開講。また、高齢者男性が「パンじい」となりパン作りをプロから学ぶ「男・本気のパン教室」は、神戸市内の地域をはじめ、武雄市(佐賀県)、大竹市(広島県)でも展開されるなど広がりを持って成長しています。

KIITO発の展覧会がニューヨークに巡回 「Earth Manual Project—This Could Save Your Life」

2013年にKIITOで開催した展覧会「EARTH MANUAL PROJECT展」の巡回展が2018年12月、パーソンズ美術大学内のシーラ・C・ジョンソン・デザイン・センターにおいて開催されました。展覧会中にはインドネシア、タイ、日本の専門家による防災教育や被災地支援のクリ

イティブな取り組みと、その国境を越えた共有・連携事例についてパネル・ディスカッションが開催されました。

photo©Ayumi Sakamoto





様々な分野で活躍するクリエイターからヒントを +クリエイティブレクチャー&トーク

「+クリエイティブ」な視点で活動を実践するクリエイターを講師に迎え創造的な活動の事例や手法を紹介。2018年度は、大橋香奈氏、大橋裕太郎氏による「フィンランドで見つけた『学び

のデザイン』、松岡賢太郎氏をインタビュアーに迎え、谷尻誠氏、倉成英俊氏、横浪修氏、西山勲氏と行った3回にわたるデザイントークイベント「Designers」などを開催しました。

社会課題を、市民のチカラで解決

+クリエイティブゼミ

社会課題を「+クリエイティブ」なアプローチにより解決しようとする、市民参加型ゼミ形式のプログラム。社会人、学生など立場や世代の異なるさまざまな参加者が、グループに分かれてのディスカッションを通じ、解決への方策を導き出すプロセスを学び実践します。2018年度は昨年度に開催した障害者福祉編公開リサーチゼミの実践編として「障害福祉サービス事業所とそこで製作さ

れる『ふれあい商品』の未来をデザインする」を開講、そこから生まれたアイデアを実現するための取り組みがゼミ終了後も続いています。また、映像編として「記録する映像から記述する映像へ『映像日記 Videograph Diary』を開講し、映像を撮る目的や意味を設定し、撮影・編集・発信する方法について学び、実践しました。



50年先も心地よく健やかに住み続けられる まちをめざして

「人口減少」公開シンポジウムとリサーチゼミ

50年先の神戸の課題や目指す姿を共有し、議論を深める機会として、5人のゲストを招いた公開シンポジウム「人口減少時代の豊かな暮らしを神戸でデザインする」を開催。人口減少によって起こる変化についての基調講演と合わせ、神戸を中心に活動するゲストの活動を通した、人

口減少時代を見据えた新たなライフスタイルへの展望をお聞きしました。続いて開催した公開リサーチゼミでは、様々な分野で活躍するゲストを招き、5回にわたって、「人口減少時代」をどう捉え、どのようなビジョンを描いていくのかについて示唆に富むお話をうかがいました。

旅する きいと

KIITOアーティスト・イン・レジデンス

まちのリサーチや人々との交流に重点を置く作家を招へいし、KIITOを拠点に滞在制作を行う「KIITOアーティスト・イン・レジデンス」では、現代美術家の椎原保氏を招へい。約9か月間にわたる制作期間を「旅」だと捉えた作家は、神戸のまちやKIITOをじっくり観察し、出会う人たちと

対話を行いました。それらの経験を通して構想した展示を、「旅する KIITO」と題してKIITO1階全体を会場として発表しました。

photo©Tamotsu Shiihara



神戸ってどんなまち？

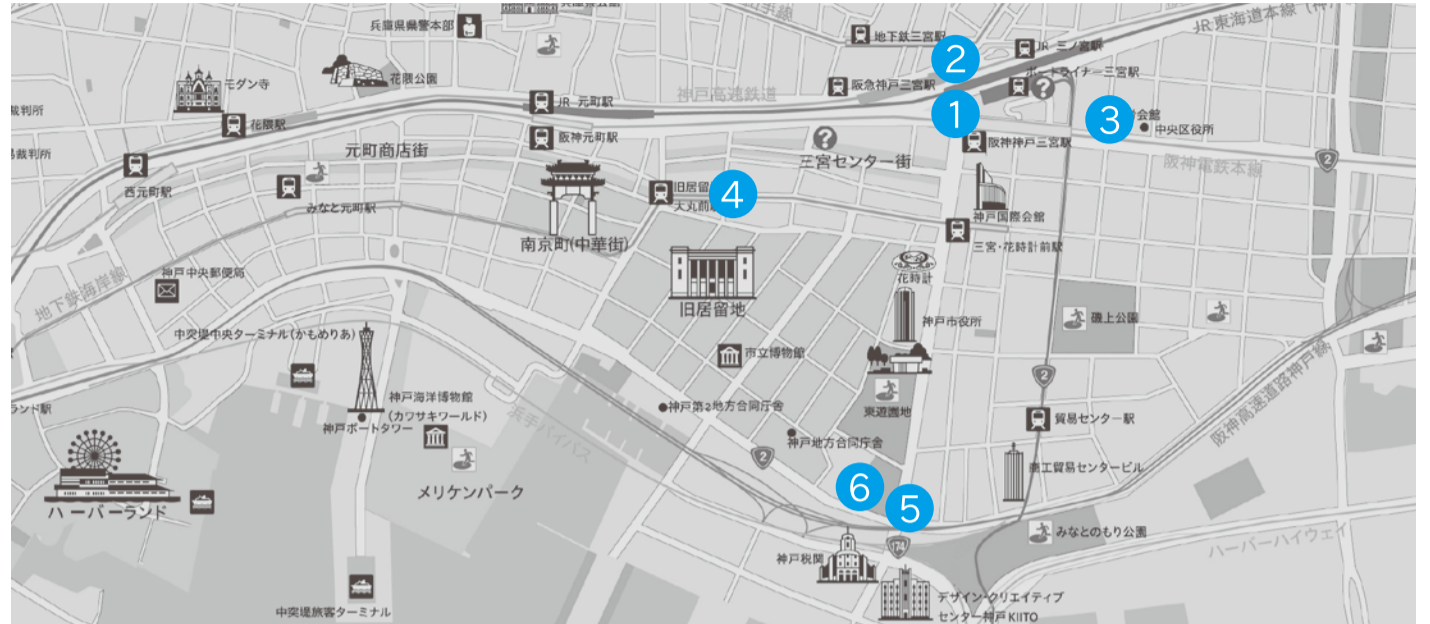
神戸スタディーズ

多彩な講師を招き、今までにない視点で神戸をみる「神戸学」をつくる試み「神戸スタディーズ」。今年度は、2017年度に開催したGHQ占領下の神戸のまちの様子を写真資料や体験者の記憶から学んだ「“KOBE”を語る GHQと神戸のまち」の内容を村上しほり氏企画監修のもと編集し、さらに新たな内容を加えて、展示で紹介

しました。また、レクチャー、FMわいわいの番組枠を借りたインターネットラジオ配信と長田地区のまち歩きを通して、社会学の視点から、世界に開かれた神戸の「港性」について考えるプログラム「港・越境・多文化共生」を開催しました。

photo©Jotaro Sakashita

都心・三宮の再整備



阪神・淡路大震災から20年余りが経過し、新たなステージを歩み始めた神戸は、市民と民間事業者、行政が協働し、世界に貢献できる国際都市として発展していくことを目指し、都心・三宮の再整備を推進しています。

新しい駅前空間「えき〜まち空間」の創出

2015年9月に策定した三宮周辺地区の『再整備基本構想』では、目指すべき将来像として「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」を掲げ、快適で利便性が高く、美しい景観が備わり、様々な

市民活動が展開される神戸の象徴となる新しい駅前空間「えき〜まち空間」を創出することを示しました。「えき」(6つの駅とバス乗降場)と「まち」をつなぐ空間を「えき〜まち空間」と名付け、

誰にとっても使いやすい、神戸の玄関口にふさわしい空間として整備します。三宮周辺地区の魅力向上を図ることで神戸に広域から人やモノが集まり、新たな需要が生まれ、都心のポテン

シャルを向上させることで神戸全体のまちの活性化を図ります。



人と公共交通優先の空間へ

1.三宮クロススクエア



「えき〜まち空間」の核として、三宮交差点を中心に税関線(フラワーロード)と中央幹線の一部において、多くの車両が行き交う道路を人と公共交通優先の空間「三宮クロススクエア」に転換することで、神戸の玄関口である三宮に降り立った人が豊かな自然と都市の活力が共存

する神戸独自の魅力・神戸らしさを身近に感じられる空間を創出します。まずは、2025年頃に「三宮クロススクエア」東側の車線減少を目指し取り組みを進めていきます。

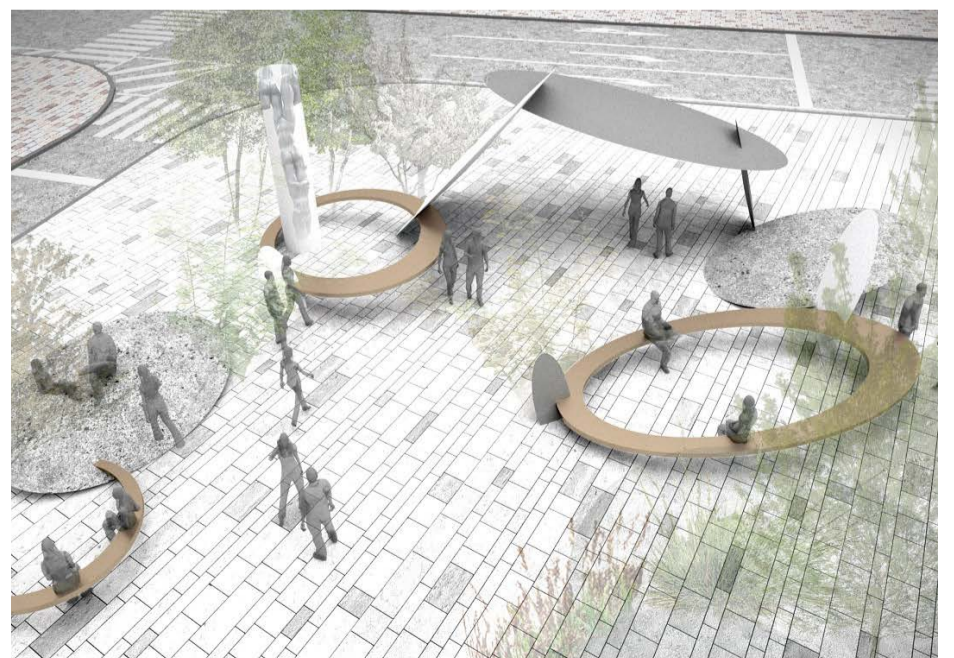
上左、三宮クロススクエアイメージ(北向き)
上右、三宮クロススクエアイメージ(南向き)

三宮駅の新たな待ち合わせスポットに！

2.神戸三宮「さんきたアモーレ広場」の新しいデザイン案が決定

2018年9月に策定した神戸三宮「えき〜まち空間」基本計画に基づき、三宮にある6つの駅と周辺のまちを一体的につなぎ、交通拠点としての機能や回遊性を高める空間の整備が進んでいます。そんな取り組みの1つとして、長らく神戸の若者達に待ち合わせ場所として親しまれてきた、「さんきたアモーレ広場」再整備のための、新たな広場のデザイン募集を行いました。220点の

応募の中から選ばれたのは、津川恵理さんの提案、「Lean on Nature」です。「自然に寄り添い、助け合ってきた神戸の新しいシンボルとなるように」との思いから創作されたデザインで、「抽象的な「円盤」を用い多彩な広場での過ごし方を見出していく」というコンセプトです。このデザイン案をもとにした新しい「さんきたアモーレ広場」は2021年春頃に完成する予定です。



分散していた乗り場をひとつに

3. 新たなバスターミナルの整備

三宮駅周辺では1日当たり約1,400便の中・長距離バスが発着しており、分散している乗り場を集約する西日本最大級の新たなバスターミナルの整備を進めています。2018年3月には基本計画を策定、5月には新バスターミナル1期事業の施行を主たる目的とした「雲井通5丁目再開発株式会社」を設立し、9月には事業協力者として三菱地所(株)を代表とするグループを選定しました。事業協力者からは、「神戸を代表するフラッグ

シップオフィスの誘致」「バスターミナル待合空間を核とした賑わい拠点の整備」「スカイライブラリーやビジネス支援機能、ホテルラウンジ等を集約した知のリビングの創出」といった提案がなされており、2025年度頃の供用開始を目指し、現在事業計画の策定などを進めています。

下. 新たなバスターミナルイメージ
右. 1期事業協力者提案再整備イメージ



民学官の連携で実現した日本初の取り組み

4. KOBEパークレット グッドデザイン賞受賞

都心の道路を活用し、憩いと賑わいを創出しているKOBEパークレット。三宮中央通りに設置して2周年を迎えたKOBEパークレットが、グッドデザイン賞を受賞。歩くことが楽しくなるような

魅力的な道路にデザインしなおす「道路のリデザイン」の一環であり、車道の一部を利用した日本初の取り組みであることや民学官の連携により事業を推進させたことが高く評価されました。



渡りたくなる歩道橋

5. 税関前歩道橋の新しいデザイン案が決定

三宮周辺地区の再整備やウォーターフロントの再開発が進む中、「国道2号による分断感の緩和」、「南北軸の回遊性向上」を課題に、『渡りたくなる歩道橋』をテーマとして、既存の歩道橋を全面リニューアルするための設計提案を募集しました。最終提案5件の中から選ばれた(株)エイト日本技術開発を代表とするグループ(構成員(株)イー・エー・ユー)の提案は、緩やかなカーブを描く平面線形や吊り構造による造形

美、桁厚500mmによる軽快なデザインや周辺環境との調和、緩やかで広幅員のスロープなど、提案内容全体として機能・景観・デザインのバランスが取れており、また技術・マネジメントにおいても優れていることが評価されました。この新たな歩道橋は、2022年度末供用開始を目指し、三宮周辺地区と新港突堤西地区・みなとのもり公園をつなぎます。



新たな場所で時を刻みはじめる

6. こうべ花時計の移転

1957年4月、全国初の花時計として市役所新庁舎(現在の2号館)の完成と同時に時を刻みはじめ、60年以上の間、神戸のシンボルとして市民をはじめ、神戸を訪れる多くの方に愛され

てきた「こうべ花時計」。庁舎の再整備に伴い、2019年3月に東遊園地へ暫定移転し、新たな場所で再始動しました。

都市交通のデザイン「走るポートタワー」 連節バス運行の社会実験で期間限定ラッピングバス登場

新たな公共交通システム(BRT・LRT)の導入可能性検討の一環として「連節バス運行の社会実験」を実施するにあたって、ラッピングデザインコンペを開催しました。神戸市在住のデザイナー小野良太さんのデザインによる「走るポートタワー」をコンセプトにしたラッピングバス

は、2018年10月の土日祝日の9日間、ウォーターフロントエリアを快走し、街行く人たちの注目を集めました。実験期間中約4,800人の乗車があり、都心とウォーターフロントの回遊性向上のための新たな交通手段として期待の声も寄せられています。



市民を巻き込み、都市の可能性を広げる クロスメディアイベント「078」

世代や分野の壁を超え、市民・クリエイター・エンジニアなどが集まり交流することで、新たな神戸の価値を創り上げていく参加型のクロスメディアイベント「078」。2回目となる2018年は、4月27日から29日にかけて3日間開催しました。中心となる分野は音楽・映画・ファッション・IT・食・こども・アニメの7分野。三宮都心エ

リア全体が会場となり、賑わいが生まれました。みなとエリアでの映画上映や家族みんなで楽しめるワークショップ、音楽ステージのほか、分野を横断した最先端のカンファレンスなどを開催。また、関西圏域の大学等と連携し、学生自らが企画・運営するプログラムも実施するなど、創造性を発揮するイベントとして人気を得ています。

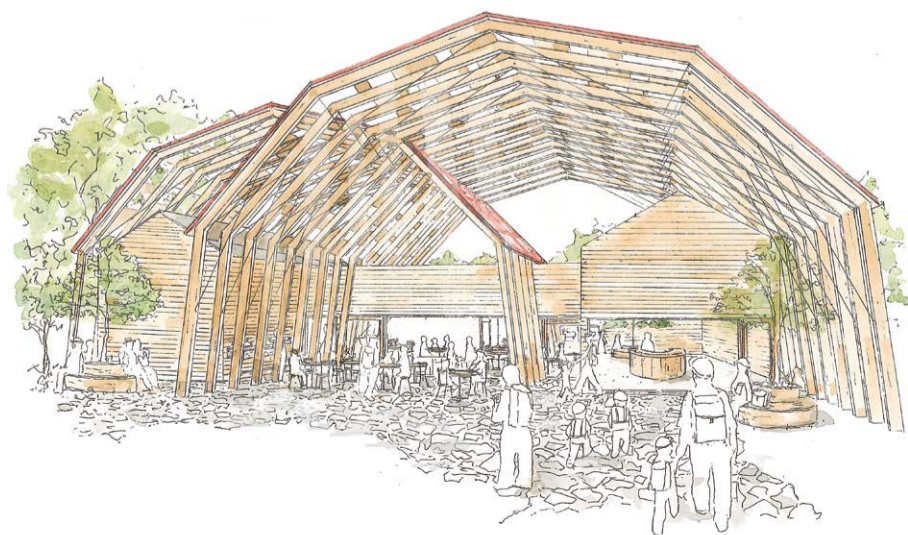
貴重な文化遺産の保全・活用のために 茅葺民家の指定サイン決定&「こうべ茅葺トリセツ」の作成

神戸市には北区・西区を中心に約800棟の茅葺民家が現存しており、その保全活用のため、景観条例に基づく「景観形成重要建築物」の指定開始を検討しています。制度についての情報発信と共に、所有者の茅葺民家への愛着を高め、積極的な保全活用を促進するために、指定された茅葺民家に設置するサインデザインの募集を実施しました。応募42点から、安田泰弘さんの作品が最優秀賞に決定。透明な素材に

グラデーションを付け、空気から滲んで出てきたようなデザインで、茅葺民家になじむサインとなりました。さらに、茅葺民家の様々な活用方法を紹介するとともに、建物の安全性等に関する法規制を分かりやすく一冊にまとめた「茅葺民家あんしん活用ガイドライン-こうべ茅葺トリセツ」を作成。茅葺民家をカフェやショップなどとして安心して活用していただけるようサポートしています。



茅葺民家あんしん活用ガイドライン



牧場のシンボルとなるデザインに 六甲山牧場トイレ棟増築整備

瀬戸内海国立公園六甲山地区に位置し、市街地からのアクセスもよく、1976年から市民への一般開放を開始して以来、観光シーズンには多くの来場者でにぎわっている六甲山牧場において、トイレ棟増築工事設計のプロポーザルを実施しました。10者からの提案のうち、(株)y&M

design officeの提案が採用されました。スイス山岳牧場をイメージして作られた観光牧場に建つトイレ棟らしく、木材を利用したマンサード型の2つの屋根が印象的で、のどかな環境に溶け込み、六甲山牧場のシンボルとして期待されるデザインとなっています。



公共空間で非日常を創り出す活動 神戸ホワイトディナー／旧居留地ナイトマーケット

【神戸ホワイトディナー】 コスチュームはもちろんテーブル、椅子、装飾まですべてを白一色に統一。料理や飲み物、テーブルセットなどすべてを参加者自らが持参し、神戸で一番贅沢な屋外スペースに、参加者それぞれが創造性を発揮して創りあげる、美しいディナー。コスチュームやテーブル上の飾りつけなど回を追うごとに工夫が凝らされ、アイデアいっぱいの楽しい宴として人気を博しています。2018年は神戸旧居留地で開催され、見慣れた公共空間を非日常空間に変え、世代の壁を越えて楽しむという考えが広がってきています。

【旧居留地ナイトマーケット】 神戸・旧居留地の玄関口である大丸神戸店東側・南側の道路を歩行者天国にしたナイトタイムのマーケットイベント。普段は車が行き交う道路が歩行者天国となり、

椅子やテーブルが並べられた中で飲食や音楽ライブ、アート、工芸、キッズイベントなどを楽しめるこの催しは、2018年12月に第3回が開催され、マーケットのにぎやかな光が石畳のまちを美しく照らし、多くの来場者を魅了しました。

左. 神戸ホワイトディナー photo©川瀬典子
下. 旧居留地ナイトマーケット

photo©Fumihiko KawashitaTourbillonDesignStudio



親しみやすい新たな撮影スポットに しおさい公園にもBE KOBEの新たなモニュメントを整備

市街地の景色を海側から望むことができる市内有数のビューポイントであるポーアイしおさい公園。シビックプライドのメッセージである「BE KOBE」のロゴを取り入れた新たなモニュメントを設置するために、設計・制作・設置を担う事業者の募集を行い、17点の応募の中から、(株)陶額堂の提案を選定しました。メリケンパークに設置されている既存のモニュメントと対のデザイ

ンとなっており、対岸の港の風景が切り抜き部分を通して見え、その切取られた風景と一緒に撮影ができるなど、既存のモニュメントと一体的でありながらも異なる体験ができます。夜間には、切り抜き部分の内側がカラーLEDでライトアップされます。2019年春に完成し、魅力的なウォーターフロントの親水空間を内外に発信する新たな撮影スポットとなることが期待されます。



夜間イメージ(カラーLED使用)



だれもが安心して子育てできるまち 子育て魅力発信キャンペーン

子ども目線の施策や施設をまとめてPRする「子育てするなら神戸!100の理由」魅力発信キャンペーンが2018年10月に始まりました。特設ウェブページを開設するとともに、施策をまとめた小冊子の配布など、神戸で子育てする魅力をわかりやすく紹介。例えば、政令指定都市で最高額の「妊婦検診助成」や、通学だけでなく塾や

習いごとで地下鉄を利用する中学生以下のお子孙さんが購入できる「U-15定期券」など、「健康・病院」「おかね」「便利」「学ぶ」「イベント・おでかけ」といったあらゆる場面で、若い世代が安心して結婚・出産できるよう、子どもの成長に応じた切れ目のない施策を展開し、だれもが安心して子育てできるまちを目指しています。

市が抱える課題の解決にスタートアップと取り組む 地域課題解決プロジェクト「Urban Innovation KOBE」

スタートアップ(成長型起業家)・ベンチャー企業と市職員が協働して神戸市の地域・行政課題を解決する国内自治体初プロジェクト「Urban Innovation KOBE(アーバンイノベーション神戸)」。2018年度には、子育てイベント参加アプリの実証開発や、女性の社会参画に向けたリカレント教育のニーズ検証など、13の課題に対し

てスタートアップ企業が取り組みました。柔軟な発想や優れた技術力を持つスタートアップ・ベンチャー企業と、社会・地域課題のことを詳しく知る市職員が協働することで、市民にとって最適な解決手法を見出し、サービスの構築・実証を目指しています。





※開催エリアのイメージカット

何かを“飛び越え、あちら側へ向かう”ための試み アート・プロジェクトKOBÉ 2019 「TRANS-」

2019年秋、「ラグビーワールドカップ2019」の開催により国内外をはじめ多くの方が訪れ、神戸を世界に発信する絶好の契機となることから、開催地の兵庫区南部や長田区南部を舞台に、現代アートを中心としたアート・プロジェクトKOBÉ2019:TRANS-の開催概要が決定しました。開催期間は2019年9月14日から11

月10日の約2ヶ月間で、世界の第一線で活躍するグレゴール・シュナイダー氏とやなぎみわ氏を招聘し、会場となる3地域(兵庫港(運河)、新開地、新長田)において、地域の歴史や文化などを踏まえた作品を発表予定。開催エリアのまちや空間の特色を活かした現代アート作品の創作・展示が見どころとなります。

新しい区役所にふさわしい案内サインをデザイン 北区役所の移転

2018年9月、鈴蘭台駅前に、北区の玄関口にふさわしい新たな賑わいの拠点づくりの一環として再開発ビルがオープンし、1階ピロティ部分にはバス乗り場などの交通広場が整備され、1～3階には商業・飲食テナントが入居、4～7階には北区役所が移転オープンしました。新庁舎の特徴として、ご来庁舎の入口となる4階部分に区役所総合案内を設置し、分かりやすい案内サインやプライバシーに配慮した窓口カウンター等、安心して快適な環境づくりを進めました。また、引越しや戸籍の届出に伴って発生する複数の手続きを1つの窓口で取り扱う総合窓口や窓口の混雑状況がホームページで確認できる発券機を設置し、利用者の利便性も向上していま

す。さらに、5階の健診・教室スペースには、神戸市クリエイティブディレクターがデザインした動物サインを各部屋の入り口に採用し、親子連れを中心としたご来庁者に親しまれ好評を博しています。



東遊園地を都心の憩いの場に アーバンピクニック

東遊園地に賑わいをつくるために、芝生広場を活用する社会実験「アーバンピクニック」を実施しました。4年目となる2018年も、東遊園地を「市民が育てる公園」と位置づけ、多様な主体が関わる公園づくりを追求していきました。「市民がシェアするアウトドアリビング」「都心の価値を高めることができる」「コンパクトシティ神戸の核となる」といった公園がもつ大きな可能性を、さらに引き出すとともに、市民と行政がともにチャレンジすることで、神戸の都心全体の今後の整備と長期的な発展につなげていきました。

左.ナイトピクニック
下.親子でHULA



神戸の農産物・生産者に出会える場 ファーマーズマーケット&FARMSTAND

地産地消のライフスタイル化をすすめるプラットフォーム「EAT LOCAL KOBE」。東遊園地で開催している「ファーマーズマーケット」は、一年を通じて消費者と生産者とがダイレクトにつながる場として定着しています。さらに、常設店舗として、2018年3月にイトローカル神戸総合拠点「FARMSTAND」がオープン。神戸産農水産物やその加工品の販売、地産地消型レストラン、クリエイター達のシェアオフィスなどが併設されています。地産地消の推進とともに、農漁業者、起業者、多様な事業者の出会いが創出されています。

右.ファーマーズマーケット
下.FARMSTAND





商店街・小売市場の新しい魅力にふれる 神戸お立寄りプロジェクト

日本中のうまいものを集めた“お取寄せ”は、毎年のようにテレビや雑誌などで特集され、大きな話題となっています。そんななか「あなたのすぐ近くにも全国のお取寄せに匹敵するまちの五つ星が存在することにお気づきですか？」というメッセージを込め「お取寄せならぬ、お立寄り」をコンセプトに地元神戸の銘品をご紹介します

るプロジェクト「神戸お立寄りプロジェクト」。舞台は神戸市内240を超える商店街・小売市場。膨大な商品の中からわざわざ行く価値あり!な20の銘品を「お立寄り認定品」として選出しました。お店を回るスタンプラリーの実施や、お立寄り大賞への投票を通じて、多くの人が商店街巡りを楽しみました。

市民がデザインしたマンホール蓋が道路を彩る 第3回マンホールデザインコンテスト

2016年から始まった、まち中で市民が目にするマンホールを市民自らの手でデザインしてもらう企画、「マンホールデザインコンテスト」の第3回目が東灘区・長田区・垂水区の3区で開催されました。市内から1,700件を超える作品の応募が

あり、各区それぞれ最優秀賞1点・優秀作品2点を決定しました。最優秀賞に選ばれた3作品については、実際のマンホールとして製品化し、各区に1箇所ずつ設置する予定です。



神戸の冬の風物詩

神戸ルミナリエ/KOBE HAPPY HOLIDAYS MARKET 2018

神戸ルミナリエ 震災の犠牲者への鎮魂と都市の復興・再生への願いを込めて始まった神戸ルミナリエは2018年で24回目。12月7日から16日に、約343万人が来場されました。作品テーマは「共に創ろう、新しい幸せの光を」。前回より11万個増の約51万個の電球を使用しました。東遊園地南側の噴水広場では、協賛事業として兵庫県内・神戸市内の企業14社が「踊る! KOBE 光のファウンテン」を開催し、神戸で有名なグルメやジャズライブステージなどを楽しむ場となりました。

戸店北側道路にて開催されました。色々な宗教の全てを越えた休日という意味が込められている「ハッピーホリデイズ」。多様性を受け入れるまち・神戸ならではのファッション、音楽、飲食等を多くの人が楽しみました。

KOBE HAPPY HOLIDAYS MARKET 2018 イベントが盛り沢山の12月に合わせて、大丸神

左.神戸ルミナリエ photo©Kobe Luminarie O.C.
下.KOBE HAPPY HOLIDAYS MARKET 2018



スマートフォンを手に、 神戸のビューポイントを巡ろう! KOBE VIEW POINT モバイルスタンプラリー開催

「神戸らしい眺望景観50選.10選」をスマートフォンアプリを使って巡るスタンプラリーを実施しました。保久良神社や六甲アイランド・リバーモールをはじめ、六甲展望台、灘丸山公園、掬星台、布引ハーブ園・展望プラザ、神戸空港など、24か所がスタンプポイントになり、その中には、大きい縫い針の形の「ビューポイントサイン」が設置されているところも。「ビューポイントサイン」の針の穴から覗いた景色は、普段とちょっと違って見えたことでしょう。



人生をいきいきと楽しむ姿を見せる 兵庫モダンシニアファッションショー

シニアや体に障がいのある方が主役となるファッションショー「第14回兵庫モダンシニアファッションショー」が、2018年12月に兵庫公会堂で開催されました。第1部では障がいのある方がモデルとなり、神戸芸術工科大学の協力により制作されたおしゃれで着やすい衣装でス

テージを歩きました。また、第2部では公募で集まった60歳以上の方がモデルとなり、着物やスーツ、ドレスなど思い思いの衣装を披露しました。このように、年齢を重ねても、障がいがあってもおしゃれを楽しみ、いきいきと輝く姿を発信しました。





企業とクリエイターの交流イベント CROSS



神戸市内の中小企業とクリエイターやデザイナーがつながる交流イベント。デザイン活用に取り組む企業とその担当デザイナーをゲストに招いたトークセッション、デザイン手法を学ぶワークショップなど、毎回趣向を変えたイベントを開催。デザインを活用する意義や効果を知ってもらうきっかけにもなっています。2018年11月には、GOOD DESIGN AWARD神戸展関連イベントとして、現役のグッドデザイン賞2018審査委員である鈴木啓太氏、寶角光伸氏をゲストに迎え、「良いものをつくる良いデザイン」をテーマとしたトークイベントを開催しました。



デザインの力で経営を変える 経営・デザイナー一体化推進事業

BtoB(法人向け)を主な業務とする中小企業が、経営戦略にデザインの視点を取り入れるプロセスを体験する実践型事業。自社のブランド力向上を目指す企業と神戸市内・関西圏で活躍するデザイナーが参加しました。参加企業とデザイナーをマッチングし、経験豊かなディレクター指導のもと、企業訪問やヒアリングを通して、デザインを活用した中期経営計画やコンセプトシートを作成するなど、企業の経営戦略の土台をつくりました。また、2019年3月には本

事業で制作した会社のロゴやパンフレットなど、成果物や今後の会社方針についての発表会を行いました。



デザイン思考を学ぶものづくり中小企業研修 クリエイティブ スパルタ塾プログラム

中小企業が既存概念にとらわれず革新的サービスを生み出すため、デザイナーの発想法をビジネスに応用した「デザイン思考」を習得し、新たなアイデアの発想と発信ができる人材を育成する「クリエイティブ スパルタ塾」。講座や企業見学を通して、「デザイン思考」の基本を身に付けるとともに、参加企業ごとに企画したアイデアのプレゼンテーションを行い、共感を得て広く伝えるための発信力とデザインの基本スキルを習得することができました。

中小企業ものづくり研修
クリエイティブ
スパルタ塾 2018



徹底した自社分析から商品企画を練り上げる ものデザインラボLAB KOBE 2018

「新しい商品を企画したい」「自社商品を見直したい」。そんなものづくり中小企業の「本気」を支援する商品開発プログラムです。第4期となる2018年度は、講師としてCEMENT PRODUCE DESIGNの金谷勉氏を招き、参加企業が徹底した自社分析、ターゲティング、コンセプト固めなどの重要性を学びながら、商品企画を練り上げました。また、第3期の参加企業はプログラムの中で開発した商品の発表にあたりクラウドファンディングに挑戦したり、展示会に出展したりするなど販路開拓に取り組んでいます。





クリエイターの力を活かして、神戸の産業に革新を都市型産業統括プロデューサーの就任

神戸市では創造性をもった「人的資本(クリエイター)」の集積により、既存産業の高付加価値化やイノベーションを誘発することができる産業分野を「都市型創造産業」と定義し、その集積に向けた取り組みを進めています。その事業の中核を担うポスト「統括プロデューサー」に藤野秀敏氏が就任しました。民間企業で培われた経験・ノウハウを都市型創造産業の集積に向けた企画立

案および施策展開に活かし、クリエイターと企業とのビジネスマッチングに関する施策やクリエイターに関する情報収集、整理、発信等に取り組んでいます。2019年は、クリエイターとしての“スキル”と“仕事”を提供する「Rethink Creator PROJECT 神戸特別版」や台湾の誠品生活(書店)での神戸フェアなどに取り組んでいきます。

神戸の職人たちの心と技を伝える

「神技」の魅力発信のための写真展

神戸には優れた技能を持つ実にさまざまな職人がいます。一方で下積みが長い、上下関係が厳しいなどのイメージもあり、後継者不足の問題に悩んでいます。2017年度に、神戸市技能職団体連合会の協力を得て、神戸の職人の技術、職へのプライド、誇りが伝わるような写真集「神技(かみわざ)」を制作。約30職種の職人を通

じ、「神技」の魅力発信、職人という仕事や生き方に憧れを感じていただけるもらう作品となりました。2018年度には、さらなる魅力発信のため、「技能グランプリ&フェスタ2018」会場や、さんちか夢広場などにおいて写真展を開催しました。スクエアボックスを活用したユニークな展示方法で、「神技」の魅力を伝えました。



人生を変える
パンプスと出会いたい、
あなたへ。

Create Your Beauty



美しく生きる女性のための新しい靴の誕生

「神戸シューズ® プレミアムライン」ブランド発表

日本ケミカルシューズ工業組合では、「神戸シューズ」の販路拡大・認知度向上に取り組んできました。「神戸シューズ®」は、靴づくりの技術をもとに、デザイン性・機能性に優れ、独自に策定した品質基準をクリアした靴だけが登録されます。2018年度には、北川一成氏(グラフィックデザイナー)のディレクションにより、「Create your beauty」をコンセプトとした

「神戸シューズ® プレミアムライン」を発表。滑らかな足入れなのにホールド感を高め、長時間履いても疲れのないフィット感を実現しました。サイズは0.25cm刻みという細やかさで片足ずつ、色違い、サイズ違いでの購入も可能。神戸の熟練の靴職人たちが提案する、美しく生きる女性のための新しいスタンダードパンプスが生まれました。

神戸の経験を世界に伝える

台湾デザインエキスポへの参加

台中市(台湾)において、2018年8月から9月に開催された「台湾デザインエキスポ2018」に参加しました。デザイン都市・神戸の都市交通・公共交通施策やプロジェクト事例、KIITOが取り

組むプロジェクトなどを紹介するとともに、アジアや世界の各都市の都市計画をめぐる優れたデザインの取り組みや知見を都市間で共有し、相互の発展につなげています。



創造的な地域がつながり発展する関係づくり

創造都市ネットワーク日本(CCNJ)

CCNJは、国内外の創造都市・農村間の連携・交流を促進するためのプラットフォーム。個々に特長があり多様性のある地域が集まるこの全国的なネットワークを通して結びつき、相互に

発展することを目指しています。現在、110自治体、41団体が加盟(2019年1月時点)。神戸市は設立時より、幹事都市としてリーダーシップを発揮しています。

世界中の“創造都市”の連携・相互交流

ユネスコ創造都市ネットワーク

創造都市とは、文化産業の振興を通じ都市の活性化を目指しているまちのこと。ユネスコ創造都市ネットワーク（UNESCO Creative Cities Network = UCCN）は、そんな“創造都市”の連携・相互交流を目的とした世界ネットワークです。「文学」「映画」「音楽」「クラフト&フォークアート」「デザイン」「メディアアート」「食文化」の7つの分野ごとに、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が認定。現在180の都市（うちデザイン都市は31都市）が加盟しています

（2019年3月時点）。神戸市ではこのネットワークやさまざまな交流事業を通じ、「デザイン都市・神戸」の魅力を国内外に発信しています。2018年6月と10月に開催された都市間会合では、神戸市はヘルシンキ市（フィンランド）とともに「デザインと教育」の議論を牽引する役割を果たしました。また、2018年10月27日には、国内のユネスコ創造都市8都市が名古屋市に集まり、各都市の課題や、取り組みを共有し、今後の連携について議論を行いました。



UNESCOデザイン都市パブリックフォーラムに登壇

シンガポールデザインウィーク参加

2019年3月8日、シンガポールデザインウィークの一環として、UNESCO創造都市ネットワーク・デザイン都市パブリックフォーラムが開催され、①デザインと政策、②デザインと教育、③デザインとビジネス、④デザインとコミュニケーションの4つのテーマでパネルディスカッションを行いました。神戸市は、②デザインと教育のセッションに参加し、神戸市のこどもの創造的学びに関し

て紹介し、意見交換を行いました。この「デザインと教育」セッションには、ほかにも、ケープタウン市、ヘルシンキ市、武漢市、そして開催都市シンガポールから教育者が参加し、先進事例の共有やその背景にある目的、理念について語り合いました。予測不能な未来に向けて、世界のデザイン都市間で経験を共有する意味、協働の可能性を感じる意義深いフォーラムになりました。

創造的活動拠点がはたす役割を見つめなおす

神戸市×リバプール市交流フォーラム 「クリエイティブスペースが都市に与えるインパクト」

クロスメディアイベント「078」の開催にあわせ、ユネスコ創造都市ネットワーク「音楽都市」であるリバプール市から創造的活動拠点FACT（Foundation for Art and Creative Technology）のディレクターであるマイク・ス

トップス氏を招き、フォーラムを開催しました。KIITO副センター長の永田宏和氏、大阪府立江之子島文化芸術創造センター館長の甲賀雅章氏もゲストに迎え、都市における創造的活動拠点の役割について多角的に考察しました。



海外展示会で「デザイン都市・神戸」をPR

海外デザイン展への出展「Seoul Design Cloud」

2018年9月に、ソウル市（韓国）で開催された、ユネスコ・デザイン都市中心の合同展示会「Seoul Design Cloud」。安全・ユニバーサル・持続可能性といった観点で、各都市で取り組まれている「ひとにやさしい環境のデザイン」が紹介されました。神戸市からは、しあわせの村内の移動に際

して、「最短ルート」や「段差・階段のないルート」「点字ブロック（歩行誘導マット・手すり）ルート」などが検索できる歩行者向けナビゲーションアプリ「だれでもナビ」と、KIITOの+クリエイティブゼミから生まれた「日常的にも活用される津波避難情報板」の2つを紹介しました。

神戸市はユネスコに認定されたデザイン都市です
2018年10月、認定10周年を迎えました



BE KOBE

<http://bekobe.jp/>

「デザイン都市・神戸」の取り組みや情報を発信中

デザイン都市・神戸

